

# 炭ずみまできれいにね！っと

日本熊森協会 岐阜地区

## 趣旨

～「ありがとう花咲かじいさん」枯れ木に炭をまいて花を咲かそう～

日本の森に、炭を撒いて、水源の森を復元。  
森は地球の生命維持装置。  
炭は燃料としてのエネルギーから命を救う特効薬として生かす。  
酸性土壌を中和し、土中の微生物を元気にしていく。

- 1、酸性土壌によって、枯れていく檜をはじめ、広葉樹に炭を撒いて、甦らせていく。
- 2、スギ、ヒノキを間伐し、森に光を入れる。その間伐材を炭にして、山にまく。  
これにより、炭が山を耕し、土壌に微生物が甦り、見事な循環の世界が創造できる。

古来の日本炭焼き文化を復活させていくために、需要と供給のバランスをとる。

- 1、炭の普及活動  
効用、活用法を伝えていく。
- 2、炭焼き人をネットワークでつないで、技術交流を図る。
- 3、購入方法を知らせる。
- 4、炭焼き人、ボランティアを募り、炭焼きを活性化していく。

枯れ木に灰を撒いて、花を咲かせた「花咲かじいさん」の童話は先人の叡智だった。

## 炭と日本文化

戦前は、ほとんどの家で炭焼きを行っていた。本来の目的は、燃料としての利用です。  
また、炭が水をきれいにするのは昔から知られていた。  
炭の層を通すことにより、水をきれいにし、脱臭効果や、解毒作用まである。

炭1グラムの表面積は、300～400㎡にもなり、非常に目の細かいフィルター（多孔質）になっている。

この穴は、酸性雨によって土壌に溶けだしたアルミニウムや、環境ホルモンを吸着し分解して微生物に棲みかを提供する。  
炭の成分は90%以上が炭素で、その他カルシウム、マグネシウム、マンガン、酸化鉄、カリウムなどのミネラルが含まれている。  
このミネラルが溶け出すことにより、植物の生育に良い影響を与え、土を健康にしてくれる。  
また、炭が水をためることにより、土に酸素を入れ、保水力の高いミニダムとなる。

炭焼き窯に集まってくる小鳥。

炭焼き小屋には、小鳥たちがよく集まってくる。小屋の周りにえさとなる虫が増える。  
土が豊かであれば、土の中の微生物も豊かです。落ち葉を分解し、土に戻し、山に降った雨を含んで、自然のダムになります。

自然の森が雨を降らせ、樹木と小さな生き物達が作り出す養分をたつぷりと取り入れて、地下へと浸み込んでいくのです。

そんな山を何百年にもわたり、炭焼きという仕事で、先人たちに守り続けられてきました。

ところが酸性雨により、土壌中の微生物を殺し続け、生命環境の輪を壊してきました。

全ての生き物は、微生物の力を借りなければ生きていけません。

微生物の居ない世界では、生命をつなぐことはできません。

微生物との共生を図る上で、炭は大きな働きをしてくれます。

森～川～海、そして、人へと循環しながら持続可能な世界を作り出してくれる優れものの炭。

日本古来の炭文化・先人の叡智が地球の未来を救う。水源の森を復元し、全ての命が生き生きと輝く世界を次世代の子供たちにつないでいきたいです。